

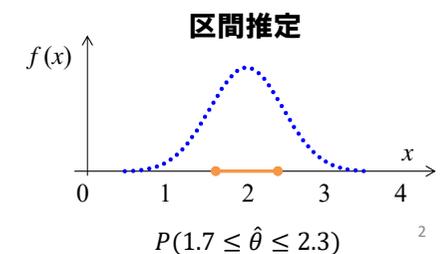
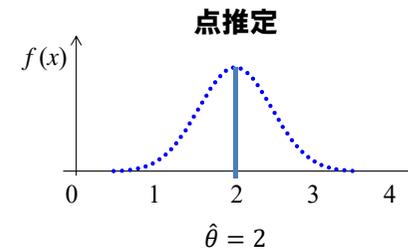
統計学入門 補助資料 ～正規母集団の区間推定～

2022年度1学期: 月曜2限
担当教員: 石垣 司

1

推定

- 標本から母集団の分布のパラメータ(母数)を求める
 - 点推定 未知のパラメータ θ を1点で推定
 - 区間推定 未知のパラメータ θ が存在する区間を推定
- データ(標本の実現値)を利用して未知 θ の値を推定
 - 例 データ $\{2, 3, 1, 2, 3, 4, \dots, 2\}$ から母集団の母平均を推定



2

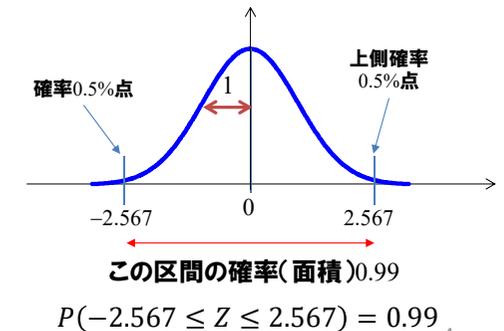
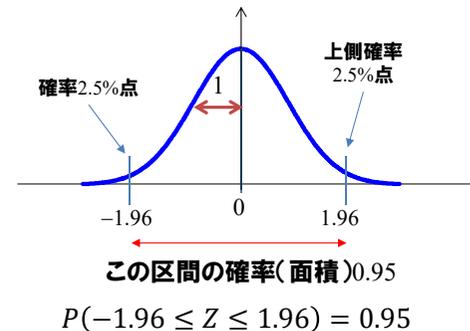
正規母集団の区間推定

- 正規母集団の母平均・母分散を区間推定
 - 正規母集団以外の母集団は, n が大きい場合, 標本平均を中心極限定理で正規分布に近似できる
 - 信頼区間による推定
- 講義内容の整理(正規母集団に限定)
 - ①母分散が既知の場合の母平均の区間推定
 - ②母分散が未知の場合の母平均の区間推定
 - t 分布、カイ2乗分布
 - ③ 正規母集団の母分散の区間推定

3

(復習) 標準正規分布の上側確率点と信頼区間

- Z_{α} 標準正規分布の上側確率 $100 \times \alpha\%$ 点
 - 97.5%点(上側確率2.5%点) $Z_{0.025} = 1.96$
 - 2.5%点 $Z_{0.975} = -Z_{0.025} = -1.96$
 - 99.5%点(上側確率0.5%点) $Z_{0.005} = 2.567$
 - 0.5%点 $Z_{0.995} = -Z_{0.005} = -2.567$



4

①正規母集団の母平均の区間推定(母分散既知)

• 例 母平均 μ の95%信頼区間(復習)

– 標準化した標本平均 $\bar{Z} = \frac{\bar{X} - \mu}{\sigma/\sqrt{n}}$

$$P(-1.96 \leq \bar{Z} \leq 1.96) = 0.95$$
$$P\left(\bar{X} - 1.96 \frac{\sigma}{\sqrt{n}} \leq \mu \leq \bar{X} + 1.96 \frac{\sigma}{\sqrt{n}}\right) = 0.95$$

– σ の値は既知なので信頼区間は計算可能

• しかし、多くの実データの分析において、平均が未知で分散が既知という状況は考えにくい

5

②正規母集団の母平均の区間推定(母分散未知)

• “母分散 σ^2 は既知”の条件は現実的ではない
⇒ 母分散 σ^2 を標本分散 S^2 で代用

• t 統計量

– \bar{Z} 中の σ を S で代用した統計量 T

$$\bar{Z} = \frac{\bar{X} - \mu}{\sigma/\sqrt{n}} \rightarrow T = \frac{\bar{X} - \mu}{S/\sqrt{n}}$$

– T の分布は標準正規分布ではない

– 大標本 (サンプルサイズ n が $n \geq 30$ くらい)
⇒ 中心極限定理より T を標準正規分布で近似

– 小標本 ($n < 30$ くらい) ⇒ t 分布

6

小標本の区間推定に必要な確率分布

• Student の t 分布 (1908)

– t 統計量の従う確率分布

– ビールの品質管理から誕生

- 醸造器内の酵母数を標本抽出し顕微鏡で数えて厳密管理
- 当初は $\sigma^2 = S^2$ としてビール品質の監視
- しかし、小標本のとき、 S^2 の値がおかしいと気付く
- \bar{X} の信頼性評価に正規分布 (with $\sigma = s/\sqrt{n}$) は不適の疑念をもつ

– ⇒ 小標本のときの S^2 の正しい見積もりが必要

• カイ2乗分布 $\chi^2_{(n)}$

– 標本分散 S^2 に関連する確率分布



William Sealy Gosset
1876-1937
ギネスビール社員
“Student” はペンネーム

7

χ^2 分布

• 自由度 n のカイ2乗分布 $\chi^2_{(n)}$

– 確率変数 $Z_i \sim i.i.d. N(0,1)$ の2乗和 χ^2 の従う分布

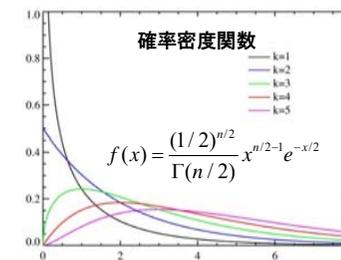
$$\chi^2 = Z_1^2 + \dots + Z_n^2$$

– パラメータ 自由度 n (サンプルサイズ n に対応)

– 平均と分散 $E[\chi^2] = n, V[\chi^2] = 2n$

– 再生性をもつ

- $X_i \sim \chi^2_{(n)}$ (自由度 n の χ^2 分布)
- $Y_i \sim \chi^2_{(m)}$ (自由度 m の χ^2 分布)
- $X_i + Y_i \sim \chi^2_{(n+m)}$



8

t 分布と χ^2 分布の関係

- t 統計量は, \bar{Z} と χ^2 分布に従う確率変数の比
 - 標本 $X_i \sim i.i.d.N(\mu, \sigma^2)$ のとき U は自由度 $n-1$ の χ^2 分布に従う

$$U = (n-1) \frac{S^2}{\sigma^2}$$

- t 統計量

$$T = \frac{\bar{X} - \mu}{S/\sqrt{n}} = \frac{\bar{Z}}{\sqrt{U/(n-1)}} \quad \begin{array}{l} \leftarrow \text{標準正規分布} \\ \leftarrow \text{自由度 } n-1 \text{ の } \chi^2 \text{ 分布} \end{array}$$

- 標準正規分布に従う確率変数と χ^2 分布に従う確率変数の比
- 両者の密度関数の比から t 統計量の密度関数を生成

- t 統計量に従う分布を自由度 $n-1$ の t 分布とよぶ

$U \sim \chi^2_{(n)}$ の証明は煩雑なため省略。興味のある人は、「高杉&馬場, 演習統計学キャンパス・ゼミ, マセマ出版社」の p.168 などを参照⁹

t 分布

- 自由度 n の t 分布

- $Z \sim N(0,1), W \sim \chi^2_{(n)}$, Z と W は独立のとき, t が従う分布

$$t = \frac{Z}{\sqrt{W/n}}$$

- パラメータ 自由度 n

- 平均と分散

$$E[t] = 0, V[t] = \frac{n}{n-2} \quad (n > 2)$$

- $n = 1$ のときコーシー分布

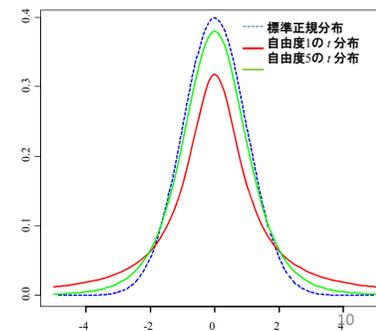
- 原点に対象

- 自由度 n が大きい時 ($n > 30$ くらい) 正規分布にほとんど一致

- $n \rightarrow \infty$ の時, 正規分布

確率密度関数

$$f(x) = \frac{\Gamma((n+1)/2)}{\sqrt{n\pi}\Gamma(n/2)} (1 + x^2/n)^{-(n+1)/2}$$



② 正規母集団の母平均の区間推定 (母分散未知)

- $t_{\alpha}^{(n-1)}$: 自由度 $n-1$ の t 分布の上側確率 $100 \times \alpha\%$ 点

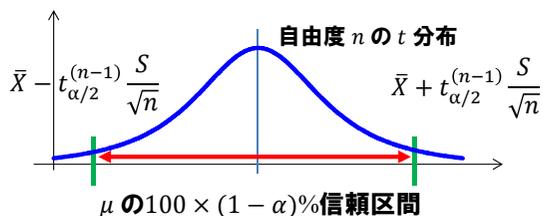
- 例: 自由度 $n-1$ の t 分布の上側 5% 点 $t_{0.05}^{(n-1)}$

- t 分布は対称 $t_{\alpha}^{(n-1)} = -t_{1-\alpha}^{(n-1)}$

- $100 \times (1 - \alpha)\%$ 信頼区間の計算には $t_{\alpha/2}^{(n-1)}$ を使用

$$P\left(-t_{\alpha/2}^{(n-1)} \leq T \leq t_{\alpha/2}^{(n-1)}\right) = P\left(\bar{X} - t_{\alpha/2}^{(n-1)} \frac{S}{\sqrt{n}} \leq \mu \leq \bar{X} + t_{\alpha/2}^{(n-1)} \frac{S}{\sqrt{n}}\right)$$

- 例 95% 信頼区間の場合 $\alpha = 0.05, 100 \times (1 - \alpha) = 95, t_{\alpha/2}^{(n-1)} = t_{0.025}^{(n-1)}$

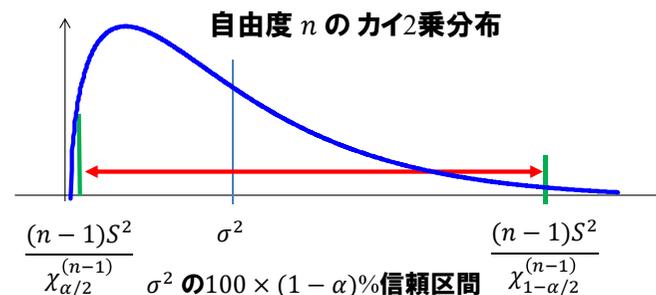


③ 正規母集団の分散の区間推定

- $U = (n-1) \frac{S^2}{\sigma^2} \sim \chi^2_{(n-1)}$

- $\chi_{\alpha}^{(n-1)}$: 自由度 $n-1$ の χ^2 分布の上側 $100 \times \alpha\%$ 点

$$P\left(\chi_{1-\alpha/2}^{(n-1)} \leq U \leq \chi_{\alpha/2}^{(n-1)}\right) = P\left(\frac{(n-1)S^2}{\chi_{\alpha/2}^{(n-1)}} \leq \sigma^2 \leq \frac{(n-1)S^2}{\chi_{1-\alpha/2}^{(n-1)}}\right)$$



演習問題

- 東証株価指数(TOPIX)の日次収益率は正規分布に従うと仮定する
 $t_{0.025}^{(3)} = 3.18, t_{0.025}^{(4)} = 2.78, t_{0.05}^{(3)} = 2.35, t_{0.05}^{(4)} = 2.13, Z_{0.025} = 1.96,$
 $Z_{0.05} = 1.65, \chi_{0.025}^{(3)} = 9.35, \chi_{0.025}^{(4)} = 11.14, \chi_{0.05}^{(3)} = 7.18, \chi_{0.05}^{(4)} = 9.49,$
 $\chi_{0.975}^{(3)} = 0.22, \chi_{0.975}^{(4)} = 0.48, \chi_{0.95}^{(3)} = 0.35, \chi_{0.95}^{(4)} = 0.71$
- 直近の4日間の日次収益率は $\bar{X} = 0, S^2 = 1$ であった。母平均 μ の95%信頼区間を求めなさい
 - このとき、母分散 σ^2 の95%信頼区間を求めなさい
 - 約1年間(256日)の日次収益率は $\bar{X} = 0, S^2 = 1$ であった。母平均 μ の95%信頼区間を求めなさい

演習問題

- 東証株価指数(TOPIX)の日次収益率は正規分布に従うと仮定する
 $t_{0.025}^{(8)} = 2.31, t_{0.025}^{(9)} = 2.26, t_{0.01}^{(8)} = 2.90, t_{0.01}^{(9)} = 2.82, t_{0.005}^{(8)} = 3.36,$
 $t_{0.005}^{(9)} = 3.25, \chi_{0.01}^{(8)} = 20.09, \chi_{0.01}^{(9)} = 21.67, \chi_{0.005}^{(8)} = 21.96,$
 $\chi_{0.005}^{(9)} = 23.59, \chi_{0.99}^{(8)} = 1.65, \chi_{0.99}^{(9)} = 2.09, \chi_{0.995}^{(8)} = 1.34, \chi_{0.995}^{(9)} = 1.74$
- 直近の9日間の日次収益率は $\bar{X} = 0, S^2 = 1$ であった。母平均 μ の99%信頼区間を求めなさい
 - このとき、母分散 σ^2 の99%信頼区間を求めなさい